

中学生ニュージーランド生活体験レポート

**初めての
大冒険で
たくさん
の思い出
をまじ
びました**



オークランドの語学学校で先生を囲んで

ありがとうニュージーランド

二年一組 奥村 なつ希

ファームステイ先の人たちは、私たちにも分かるように、ゆっくりていねいに話してくれました。「ただいま」です。「ありがとう」。など、たまに日本語を使ってくれて、とても優しくおもしろい人ばかりでした。ファーム体験では、ホストファミリーのディレックさんが運転するトラク

ターに乗って、仕事をしました。子供が飲むためのバケツ一杯の甘い液体を運ぶ作業をしたり、ミルクをやるところを見せてもらったりしました。阿久比ではできない貴重な体験ができて、とてもうれしかったです。

ホストマザーのクレアさんは、私の片言の変な英語をじょうずに聞き取って会話をしてくれました。食事中におなかがいっぱいになりすぎていないか「Finish」と聞いて、私たちが言い出しやすいように気を配ってくれてとてもありがたかったです。六歳のイーフィ君はいろいろ話しかけてくれました。いっしょに遊べてとても楽しかったです。

農業の仕事はあまり役に立たなかったのですが、みんなで福笑いをして遊んだり、話をしたりして、すごく思い出に残る三日間になりました。私は今まで、楽な道ばかり選んで不安なことには挑戦するのは避けてきました。今回のニュージーランドは生まれて初めての冒険でした。十日間の体験を通して自信がつけました。たくさんのお話を学びました。これからの私を大きく変えてくれそうです。



ケンブリッジのファームステイ先の家族と一緒に

最高の異文化生活体験

二年五組 木村 紗弥子

ファームステイが終わると、一人きりのホームステイです。対面の時間が近づくにつれ、緊張と不安の気持ちが高まっていききました。しかし、その不安は会ったとたんすくになくなりました。

ホストマザーのバネッサさんは、とても明るい人で優しく話してくれました。でも今度は一人きりなので友達の手助けを借りる事が出来なから、うまく話す事が出来ません。言いたい事が伝わらない悔しさと、うまく話せない悲しさでとてももつらかったです。でもやさしい英語を

使ったり、ゆっくり話したりしてくれるファミリーの優しさが自然と伝わってきてとても温かい気持ちになりました。

慣れてきてだいぶ話せるようになってきたとき、ファミリーが私にくまのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。そのときはただ「Thank you」の繰り返しだったけど、本当は泣きそうなほどうれしかったです。なかなかうまく話せない私を温かく迎え入れてくれたホストファミリーと過ごした日々は、とても心が温まる四日間でした。

私はニュージーランド生活体験で人々の優しさを感じました。どんな人も気軽に話しかけてくれるし、うまく話せなくても一生懸命聞いてくれました。たくさんのお話しに出会えました。一緒に参加した十人とは友達のを広げることができました。貴重な体験を生かしてこれからの生活を充実したものにしていきたいです。

中学生海外家庭生活 体験事業参加者(敬称略)

- 奥村 なつ希(阿中2年1組)
- 澤田 芽以(阿中2年1組)
- 三木 彩可(阿中2年1組)
- 村中 清香(阿中2年1組)
- 竹内 久美子(阿中2年4組)
- 木村 紗弥子(阿中2年5組)
- 新海 結子(阿中2年6組)
- 長尾 駿(阿中2年7組)
- 勝田 萌(阿中2年7組)
- 鈴木 真凡(阿中2年7組)